



茅ヶ崎同盟教会クリスマス学校だより

2007年度年間暗誦聖句 (こどもさんびか4番)

あなたがたのうちにはたらきかけて、そのねがいをおこさせ、かつ実現にいたらせるのは神であって、それは、神のよしとされるところだからである。すべてのことを、つぶやかず、うたがわないでください。

それは、あなたがたが、せめられるところのない、じゅんしんな者となり、まがった、じゃあくな時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、命のことばをかたくもって、かれらの間で、星のようにこの世にかがやいている。

ピリピ人への手紙 2章 13～15節(口語訳)

本年度のクリスマス祝会は12月23日の礼拝後に行われました。CS生徒の少ないなかで、大人から子どもまでが参加し、昨年同様に若者たちが音楽での大活躍もあり、楽しい祝会となりました。当日の司会を担当したCSジュニア科教師・弓桁あずさ姉の突撃レポートをお楽しみください。



2007年クリスマス祝会レポート

(弓桁あずさ 記)



前日から降っていた冷たい雨が止み、午後になると暖かい日差しが射すようになっていた。予定より早く昼食を食べ始めるが、ページェントに出る子供たちの集まりがゆっくりで、予定通り、12時45分よりハンドベルの演奏が始まる。その前に、バンド演奏のときに歌う讃美歌の練習をする。手話付きで、指導は稲津姉・・たちまちイナヅ・ワールドが展開される。

ハンドベルの音色は、いつも私に本当のクリスマスの喜びを教えてくれる。「ウクライナのベルキャロル」という曲は、雪が降っている中、たくさんの教会のベルが鳴り響いている、そんな光景を私に見せてくれた。「ひとりの御子」という曲は、がらりとかわって、エキゾチックなクリスマスを見せてくれた。世界中の人々が、クリスマスを祝っているのを実感した。

さて、清水兄の尺八の音色が、遠いユダヤへと私達をいざない、ページェントの



幕開けである。去年はマリヤが当日に決まるというハプニング、今年はヨセフだった。いったい、毎年同じページントが、どうしてこうも笑えるのか。リハーサルなしのぶっつけ本番、一発勝負、天使を演じた未就学児のみが台本なしで見事にやってのけた。受胎告知の場面では、マリヤと天使ガブリエルの掛け合いを、馬杉姉妹がなんとも可愛く演じた。ローマ兵は森本兄のトランペット・ファンファーレで登場。佐山兄・廣田兄・稲津兄と、衣装も決まってノリノリで演じてくださった。ヨセフを演じた吉見瑠威君は、羊飼いの役も演じ、「ナマ着替え」をしながら、二役を見事に演じきった。宿探しで、ヨセフがマリヤを置いていってしまうのには笑えたし、3番目の宿屋を演じた納宗君は瑠威君の兄であり、兄弟での「ご対面」が成立した。

羊飼いの河西光君は、骨折した手に杖を持って頑張ってくれたし、なにより光君の家は、一家総出演で、お母さんはミカ役を、お父さんは博士役を演じてくださった。そう、博士は、今年初めて「八」に点々が付かない、本当の八カセだと思った。歌もうまいし、衣装も本格的だった。光君のお父さんが身につけていたショールは、川島姉が用意したものであるが、四方に房が付く、ヘブライ語が書いてあり、ダビデの星(六芒星=ヘキサグラム)がついている、イスラエルの本物であるのには驚いた。ジュニアのクワイアチャイムの演奏も、ほとんど練習なしのぶっつけ本番だったが、きれいな音が出せたし、ピアノ伴奏の落合純子ちゃんも、家でバッチリ練習してあり、素晴らしかった。

CS ジュニアのアカペラコーラスは、落合兄妹・木島姉妹それに弓桁太平であ



ったが、12時45分過ぎに集合し、それから練習・本番という、ページェント同様、茅ヶ崎同盟教会独特の、なんの計画性もない、度胸だけでイッてしまう、当日勝負のコーラス隊であったが、「まきびとひつじを」、「ケンタッキーの我が家」(「クリスマスとは何の関係もない。」と太平が言ったので、後で私が、

「いいんじゃない?クリスマスって、フライドチキンを食べる家が多いから。」と言ったら、「なに、それ?」と皆に白い目でみられてしまった・・長い注釈でごめんなさい。),「あらのはてに」をアカペラで歌い、きれいなハーモニーを聴かせてくれた。5人とも音楽が大好きで、歌を歌うのも楽器を弾くのもとても好き、という面々である。

讃美歌 109 番「きよしこのよる」は、クワイアチャイムを演奏しながらの全員讃美であった。クリスマス礼拝の時もそうであったが、富井先生夫人の高く澄み切った声のオブリガートが響き、私はとても感動した。バンド演奏のための準備をする間、イナヅ・ワールドが展開される。「いつも同じですが・・・」って、それが楽しみで、あなたの「ゴリラ」が楽しみで、自分がやるよりあなたを見ているのが楽しみで、みんなあなたの出番を待っているんです!

川島悟兄・安田兄・永田兄によるバンド演奏、母親たちの讃美も加わり、熱い楽しい演奏だった。祝会が始まる前に練習した手話をしながらの全員讃美は、みなノリにノッていて、まさに「祝会」だった。私個人としては、アンコール曲の「ベンチャーズ」のアンコールを期待してしまった。

最後の讃美歌 112 番「もろびとこぞりて」は、森本兄のトランペットと久野さんのピアノも入ったハンドベルの伴奏で、皆大きな声で、文字通り「もろびとこぞりて」主をほめたたえて讃美できた。熊谷先生のお祈りとクリスマスのご案内で祝会は終わったが、子供たちにはプレゼントが配られた。中澤姉が一人で160個ものクッキーを焼いてくださり、棟田姉が1年かけて制作して下さった毛糸のミニクリスマスリース、馬場姉が折



ってくださった折り紙のサンタクロースと共に袋詰めされた,本当の「手作り」プレゼントで,子供たちは教会の皆さんの愛情がたっぷり詰まった最高のプレゼントをいただいた。

いつも心地よい疲労感が残るクリスマス祝会である。楽しくて,本当の「祝会」だな,と思うのである。茅ヶ崎同盟教会は役者がそろっているのだ。私は個性派ぞろいのこの教会が,たまらなく好きである。再来年の創立50周年記念に向けて,皆で楽しく盛り上がりながら,この茅ヶ崎の地に建てられた教会が,地域の人々への伝道の拠点になるように,主が導き守ってくださるよう祈るものである。



編集後記 (Jan.8th. 2008 Updated)



2007年度は12月23日にCSの大きなイベント,クリスマス祝会を行いました。絵本大好きの会のメンバーも参加していただき,大変賑やかな祝会となりました。本年度も春の教師紹介号から始まりイースター,ビーチプレイ・デイ,夏期学校,分級紹介,収穫感謝と教会学校の活動をホームページを通じて紹介できました主の恵みに感謝

します。クリスマス礼拝,キャロリングとキャンドルサービスが終ると新年を迎えます。(森本)



2007年キャンドルサービスにて
聖歌隊・ハンドベルクワイア

